

2. 事業の概要

(1) 水道事業指針	15
(2) 基本計画	16
(3) 福島市上水道施設概要図	16
(4) 水道事業概要	17
(5) 主要事業	19

2. 事業の概要

福島市の水道事業

本市の水道は、明治11年湧水を利用した簡易水道として市民の日常の用水を供給してきたが、水源地の水量不足と衛生面から上水道布設の要望が高まり、大正14年4月阿武隈川を水源とする計画給水人口50,000人、計画1日最大給水量5,550m³の規模で供給を開始した。

その後、市政の進展と近隣町村の合併、生活様式の変化等に対応するため、昭和22年の第1次拡張事業から7次にわたる拡張事業を実施し、主要水源施設である渡利浄水場の増補改良工事をはじめとした新たな水源開発を行い、供給量の増加と給水区域の拡大を図ってきた。

しかし、第1次から第7次にわたる拡張事業の間に開発した水源は地下水等が主であり、小規模水源では将来の水需要を賄うことができないため、長期的な展望に立ち、摺上川ダムにおける水源の確保に取り組むとともに、福島地方水道用水供給企業団からの受水を基本とした第8次拡張事業を平成元年から実施してきた。

第8次拡張事業では受・配水池や送・配水管等の整備を進め、その結果、平成19年度に本格受水を迎えることとなった。同時に創設から本市の主要施設であった渡利浄水場を廃止した。

平成20年7月には飯野町との合併、平成21年度には、鳥川配水池の完成をもって、創設から8次にわたる拡張事業が完了した。

これにより、本市の水道水は現在、摺上川ダムを水源とする福島地方水道用水供給企業団（すりかみ浄水場）で適切に処理された浄水を5つの施設（北部配水池、中央部受水池、南部受水池、鳥川配水池、飯野受水池）で受水し、供給している。

（1）水道事業指針〔ふくしま水道事業ビジョン（福島市水道事業基本計画2016）〕

① 基本理念

「いのちの水」を絶やすことなく信頼され親しまれる水道に向けて、次の100年へ挑戦します。

② 基本方針

ア 安全でおいしい水の供給

水質管理を徹底し、いつでも良質で安全でおいしい水を供給できる水道を目指します。

イ 災害に強い水道の構築

適切な施設管理と維持管理の強化に努め相互応援体制の確立を図り、災害に強い水道を目指します。

ウ 持続可能な水道経営

お客さまニーズの把握と健全経営に努め、持続可能な水道経営を目指します。

エ 地球にやさしい水道へ挑戦

良質な水道水の源となる水源を今後も保護しながら、自然環境への負荷低減を目指します。

③ 計画期間

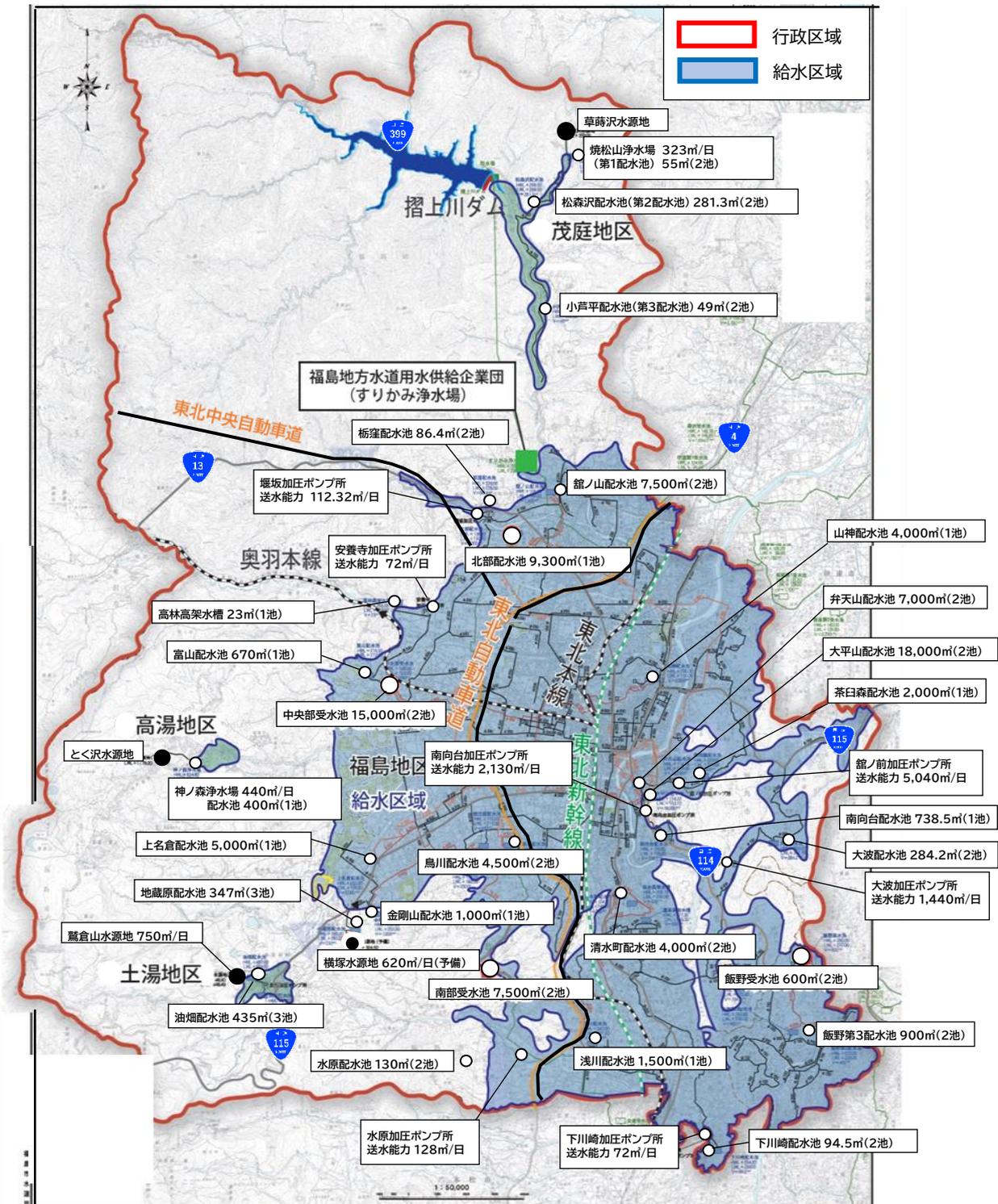
平成28年度から令和7年度までの10年間

(2) 基本計画

名 称	計 画 給 水 人 口	計 画 一 日 最 大 給 水 量	計 画 一 人 一 日 最 大 給 水 量
福島市上水道事業	282,000人	99,000m ³	350ℓ

※1 基本計画については、認可の内容を記載。

(3) 福島市上水道施設概要図



(4) 水道事業概要

令和4年度の水道事業は、「第6次福島市総合計画」に掲げる「ライフラインの災害対策の強化」として、重要施設となる基幹施設、基幹管路の耐震化事業に集中的に取り組んだ。

また、「ふくしま水道事業ビジョン」の基本方針である「安全でおいしい水の供給」、「災害に強い水道の構築」、「持続可能な水道経営」、「地球にやさしい水道へ挑戦」を事業の柱として、水道水の安定供給の確保と健全な経営の確立に努めた。

主な事業は、大平山配水池耐震補強工事に取り組んだほか、引き続き、摺上川水管橋架替工事など老朽管更新事業を実施し、水道施設の耐震化及び災害対策の更なる強化に取り組んだ。

維持管理としては、飯野受水池防水塗装替や日の倉橋添架管 350mm 塗装替工事など、アセットマネジメントに基づき、既存施設や管路の長寿命化に取り組んだ。

新たに、広域連携として、9市町村で取り組んでいるふくしま田園中枢都市圏ビジョンの中で、公営企業の広域連携推進のための、水道事業における資材の共同購入や合同職員研修会開催などの取り組みがスタートした。

経営の状況は、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が第7波、8波と、これまでにない拡大状況にあったが、経済活動との両立により、水道料金収入においては、飲食店や宿泊施設などのサービス業で増加した。一方、人口減少の影響と併せて家庭水量が減少となり、全体として減収となった。

維持管理に要する支出においては、エネルギー価格の高騰や資材高騰の影響を受けながらも、施設の延命化や、本格的な維持管理の時代に対応した費用の平準化など、適正な事務執行に努め、予算額を上回る純利益を確保した。

今後も、人口減少や電気料金、水道用建設資材の値上げなど、社会情勢や経済状況の変化に注視しながら、水道事業へ与える影響を見極め、安全安心でおいしい水道水の安定供給と水道事業の健全経営に努める。

令和4年度決算の概要は以下のとおりである。

① 業務の状況

ア 給水人口及び戸数

区 分	令和4年度末	令和3年度末	対前年度増減	増減率(%)
給水人口(人)	269,690	272,013	△2,323	△0.9
給水戸数(戸)	128,613	128,455	158	0.1
普及率(%)	97.9	97.9	0.0	—

※給水人口の令和3年度末の数値は、福島市の推計人口を基準に置き換えたものである。

イ 配水量

(単位 m³)

区 分	令和4年度末	令和3年度末	対前年度増減	増減率(%)
年間総配水量	29,740,720	29,943,576	△202,856	△0.7
1日最大配水量	95,052	93,588	1,464	1.6
1日平均配水量	81,481	82,037	△556	△0.7

ウ 有収率

(単位 %)

令和4年度末	令和3年度末	対前年度増減
89.5	89.7	△0.2

エ 供給単価と給水原価

(単位 円)

供給単価	給水原価	差 引
238.67	227.95	10.72

(有収水量1m³あたり)

(5) 主要事業

① 老朽管更新事業（ダクティル鑄鉄管）

本事業は、経年劣化が進み、強度、耐震性に劣る基幹管路（布設後30年以上経過したダクティル鑄鉄管）を対象に生活基盤施設耐震化等交付金事業として更新を行うものである。

総事業費	5,941,564千円	
事業期間	平成25～令和13年度（19年間）	
事業内容	配水管布設 ダクティル鑄鉄管（NS・GX・PN） φ200～1,000mm 24,045m 実施設計（推進工）	
令和3年までの 実施内容	事業費	2,841,807千円
	事業内容	配水管布設 ダクティル鑄鉄管（NS・GX・PN） φ200～500mm 11,126m 実施設計（推進工）
令和4年度 実施内容	事業費	415,665千円
	事業内容	配水管布設 ダクティル鑄鉄管（GX） φ300～400mm 1,459m
今後の実施見込 （～令和13年度）	事業費	2,684,092千円
	事業内容	配水管布設 ダクティル鑄鉄管（NS・GX） φ200～1,000mm 11,460m

② 水管橋耐震化等事業

本事業は、経年劣化が進み、強度、耐震性に劣る水管橋（布設後40年以上が経過した水管橋）を対象に生活基盤施設耐震化等交付金事業として耐震補強を行うものである。

総事業費	551,911千円	
事業期間	令和4～7年度（4年間）	
事業内容	阿武隈川水管橋 橋脚耐震補強 橋脚2脚	
令和3年までの 実施内容	事業費	－
	事業内容	－
令和4年度 実施内容	事業費	7,854千円
	事業内容	進入路工
今後の実施見込 （～令和7年度）	事業費	544,057千円
	事業内容	橋脚耐震補強

③ 簡易水道再編推進事業

本事業は、簡易水道事業統合計画に基づき、国庫補助を導入し簡易水道事業の施設整備を実施するものである。土湯簡易水道事業においては配水池の耐震化更新工事、高湯簡易水道事業においては浄水場更新工事、茂庭地区簡易水道事業においては浄水施設や送配水施設における運用管理を一括管理するため、遠隔監視装置の設置工事を行うことで、水の安定給水の確保を図るものである。

総事業費	1,143,183千円	
事業期間	平成26～令和7年度（12年間）	
事業内容	（高湯）浄水場更新 RC造 V=440m ³ （茂庭）遠隔監視装置設置 （土湯）配水池耐震化更新 RC造 V=330m ³	
令和3年度までの 実施内容	事業費	651,681千円
	事業内容	（土湯）実施設計 （高湯）浄水場更新 （茂庭）遠隔監視装置設置
令和4年度 実施内容	事業費	—
	事業内容	—
今後の実施見込 （～令和7年度）	事業費	491,502千円
	事業内容	（土湯）配水池耐震化更新 RC造 V=330m ³

④ 漏水調査事業

配・給水管路を路面及び戸別に漏水音聴調査等を実施し、漏水の早期発見と迅速な対処に努めている。

区分	年度					
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度計画
漏水調査距離（km）	1,150	1,120	970	950	940	940
漏水発見件数（件）	304	265	271	184	259	
推定漏水量（m ³ /年）	1,360,000	1,349,000	2,099,000	907,000	1,352,000	

⑤ 小水力発電事業

本事業では、ふくしま水道事業ビジョンで掲げる基本方針に基づき、水道水の安定供給を確保しながら、位置エネルギーを利用した小水力発電の導入（民設民営方式）により、積極的に環境負荷の低減に努め、「チャレンジ2050ゼロカーボンふくしま市」の実現を目指すものである。

<ふくしま北部配水池発電所>

二酸化炭素削減量	359.1 t-CO ₂
発電量	792,755 kWh